

観 測 帳

中 村

要

新望遠鏡 神戸市須磨の射場保昭氏の観測所に新しい19センチ望遠鏡が出来た。対物レンズの有効直径は186ミリ、焦点224センチF12のもので比較的短いものである。レンズは筆者が磨いたので硝子材は英パルソン會社製等曲クラウン、一平面の型である。器械部は京都西村製作所で作られたもので運轉時計付きの堂々たる赤道儀である。ファインダーはオットエー製の5センチ対物レンズのついた大ファインダーと35ミリの小ファインダーが付いて居る。天體實寫の爲にはツァイス、テツサ1の口径11センチF4.5のもつとダルメヤ19センチの人像玉と2個ついて居る。去る昨年の12月に据付け1月末から使用されて居る。

新しい星團 赤経5時40.7分赤緯7度21分(1855年分點)の點にブラーグのSchneller氏がクツク製20センチカメラの長時露出の極原板からめて淡い新星團を發見した。

新しいトロイ群の小遊星2個 昨年10月15日にハイデルベルヒ天文臺のラインム1ト氏は1930UA, UBの2小遊星を發見した。何れも珍らしいトロヤ群のもので(木星と同週期を有す)平均運動はUAが298秒, UBが309秒である。昨年には1930BHと共に3個のトロヤ群小遊星が見付かつたのである。さきにシメイスのNeujmin氏が9月20日に發見した1930SHは發見當時はトロヤ群のものと思はれて居たかヘルダ群のものかと知れた。

小遊星Vesta 小遊星で最も明るい第4號ヴェスタは7月に衝になるが4月中の位置は

月 日	赤 經	赤 緯	光 度
4 8	18時 59.0分	-18° 53'	6.9
4 16	19 8.9	-18 47	6.8
4 24	19 17.4	-18 43	6.0

光度は7月に6.0等になるから鋭い肉眼の

人なら見えるかも知れない。

エンケ彗星 クロンメルン氏の推算は

月 日	赤 經	赤 緯
4 1	1 9.1	+13° 48'
9 1	28.9	15 44
17 1	51.5	+17 45
25 2	17.5	+19 52

日没後僅かに見えるかも知れないが多分太陽に近いから観測出来ないだらう。盛んに接近しつつある。

Neujmin週期彗星 早朝水瓶座を東北に動いて居るはず、4月に誰か見つけるだらう

新長週期變光星 358,1930(羊座)

Simeis 天文臺の寫眞からモスコイでParenago 夫人が發見したもので變光は11.4等から<15.2等である變光要素はJ.D. 2424064+353.5日

ハイデルベルヒ天文臺の小遊星観測

小遊星観測の本山獨ハイデルベルヒ天文臺の天體物理部ではラルフ臺長がツァイス製71.5センチ(焦点2.81米)の寫眞鏡で専ら14等の微光の小遊星観測に従事して居る。寫野の廣さは2.3°に1.7度である。ラインム1ト氏はブルース機で活動して居る。ブラシア1製の徑40センチ焦点距離200センチベツゲル鏡玉2個に25センチのPauly屈折鏡のついた天體寫眞機は能力に於て世界有数のもので原板の廣さは6度に7度。一枚の小遊星原板から一つや二つの小遊星は必らずといつて差支ない程見付かる。昨年度の發見數はラインム1ト氏は實に10個であつた。昔使はれた16センチ双天體寫眞機は今も殆んど使はれて居ない。別に同天文臺の天測部にはMundler氏が33センチ屈折鏡を使つて微光小遊星及び同天文臺で新發見の小遊星の肉眼観測を行つて居る。ボリンのバリザ氏の死後此方面唯一の観測家である